

# 天馬の記

岡部耕大

25

翌朝祖母は和子姉さんをバスの停留所まで送るようになつた。わたしが和子姉さんを恩慕していることを知つての、祖母の心遣いであつた。和子姉さんは「耕大ちゃん、別離と書いてわかれと読むとは知つどると」といつた。そうだった。別離と書いて「わかれ」とルビを振ることを教えてくれたのも和子姉さんであつた。どうして憧れの人には遠

くへ去つてしまふのだろうか。  
わたしの友人が大学の夏休み  
に故郷へ帰つた。「ぐらんした」  
と友人はいつた。「ぐらん」は  
がっかりの意味も含む松浦地方  
の言葉である。擬音語といえる。  
憧れの人マタニティードレス

た。「学校の先生は好かん」とも  
いった。白状したも同じである。  
わたしは同級生を慰めながら、  
なんだか恋しかった。「おまえだけを幸せにしてたまる  
か」。人は、人の幸せを祈りつ  
つ、不幸せを願つてゐる。テレ  
初恋の人と結婚するのがいいのか、いろいろあつてから結婚す  
るのがいいのか。わからない。  
どつちにしても人は後悔をする  
のかも知れない。人は、後悔をす  
る。少しずつでも埋めながら生きて  
いる。初恋があれば晩恋があつ

万里商高の

おかげ・こうたい 1979年に  
「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、  
89年に「亞也子」で紀伊國屋演劇賞個  
人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。  
松浦市で毎年、子供たちにミュージカル  
を指導している。川崎市在住。70歳。

人もいる。長崎市の喫茶店で会つて、いるわたしと和子姉さんを、遠くの席から見ていた新聞社の知人が「へえ」といつた顔をして、いた。なにを勘違いしたのだろうか。年寄りになると七つの年の差くらいはなんでもなくなる。いずれにしても過ぎて

わたしたちはぼた山の下で野球ばかりしていた。

(松浦市出身)